経済・金融フラッシュ

ロシアの物価状況（22 年 10 月）
－前月比プラスの状況が継続

経済研究部　准主任研究員　高山　武士
TEL:03-3512-1818　E-mail: takayama@nli-research.co.jp

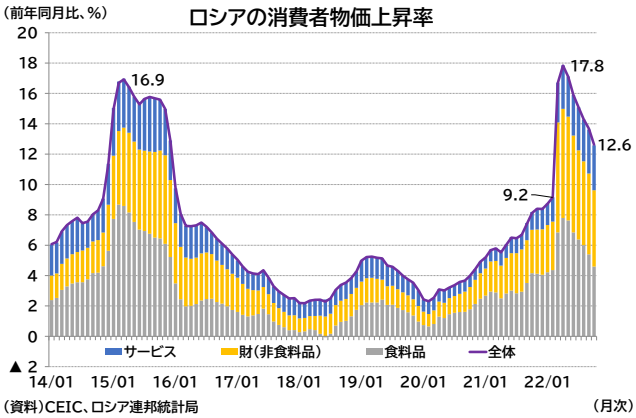
1. 結果の概要：総合指数、コア指数ともに前月比プラスが継続

11 月 10 日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数（22 年 10 月）】
- 前年同月比は 12.63%、市場予想[1]（12.80%）より下振れ、前月（13.68%）から低下（図表 1）
- 前月比は 0.18%、予想（0.30%）より下振れ、前月（0.05%）から加速した

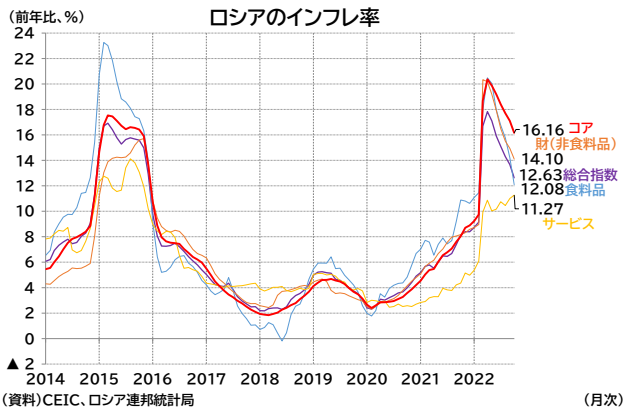
【コア指数[2]（22 年 10 月）】
- 前年同月比は 16.16%、前月（17.11%）から低下した（図表 2）
- 前月比は 0.03%、前月（0.30%）から減速した

（図表 1）



（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 2）



（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

2. 結果の詳細：サービス物価は前年比でウクライナ侵攻後のピークを更新

10 月のロシアのインフレ率は前年比で 12.63%となり 9 月の 13.68%から低下した。4 月の 17.83%をピークに 6 か月連続で低下したことになる。

大分類別に見ると、食料品が前年比で 4 月のピーク（20.48%）から 10 月には 12.08%と大幅に低下したほか、財（非食料品）が 3 月のピーク（20.34%）から 10 月に 14.10%まで低下している。一方、サービスは 3 月以降の高止まりが続き、10 月は 11.27%となり、ウクライナ侵攻後のピークを更新した。

コア指数は前年比で 10 月は 16.16%となり、4 月（20.37%）をピークに減速傾向が続いている

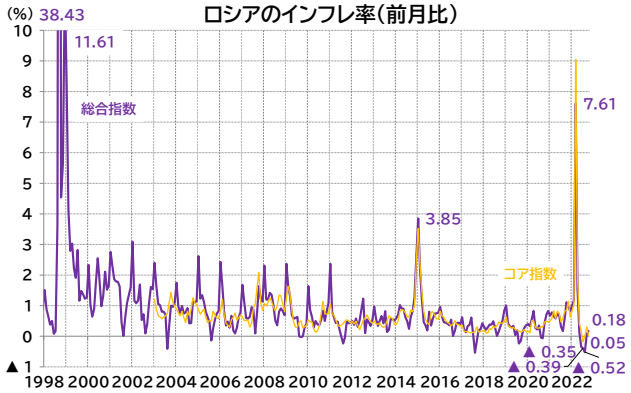
[1] bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。
[2] 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

 | Copyright ©2022 NLI Research Institute All rights reserved

ものの、減速のスピードは総合指数と比較して緩やかなものにとどまっている。

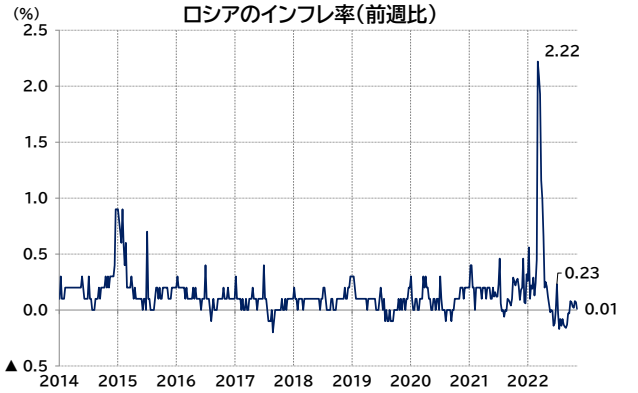
前月比では、総合指数が 10 月に 0.18%となり、9 月（0.05%）に続いて 2 か月連続のプラスの伸び率となり、伸び幅も拡大した。10 月のコア指数は前月比 0.03%なり、こちらも 9 月（0.30%）に続き 2 か月連続のプラスだったが、伸び幅は縮小している（図表 3）。

（図表 3）



（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

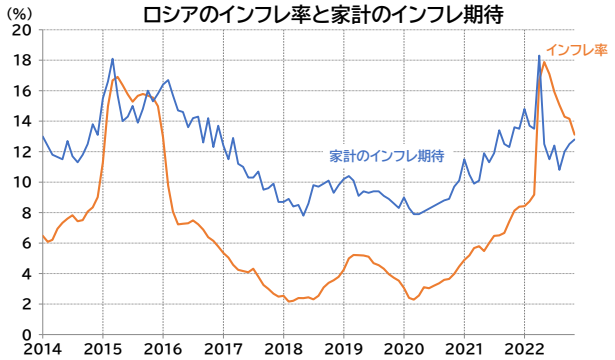
（図表 4）



（資料）Datastream、ロシア連邦統計局

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、前週比上昇では、5 月下旬からゼロもしくはマイナスとなる時期が続いていたが、9 月 26 日にプラスに転じ、その後 7 週連続でプラス圏での推移となっている。ただし、直近 11 月 7 日は前週比 0.01%とプラス幅は小さく、今後の物価上昇ペースが注目される（図表 4）。

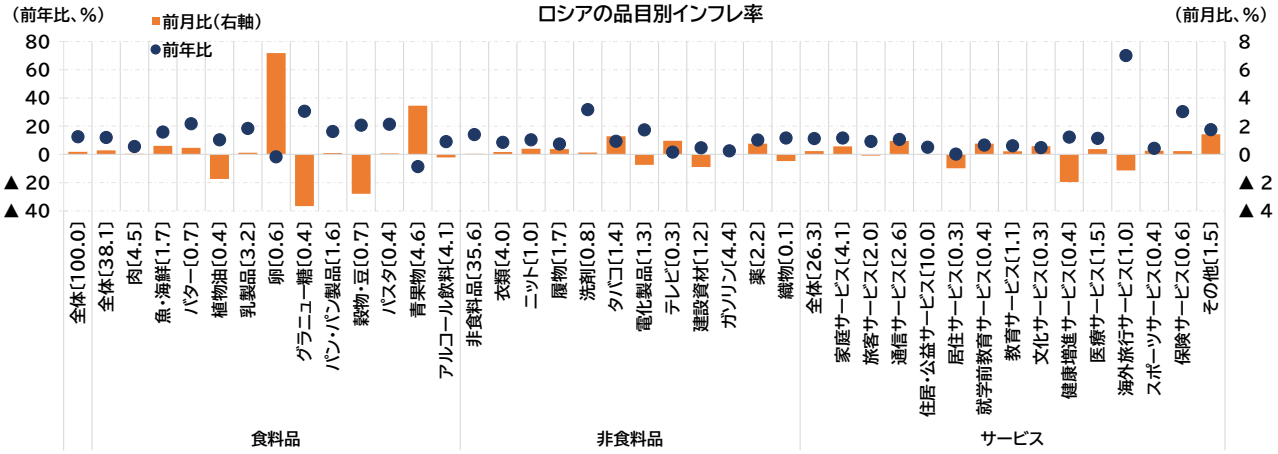
（図表 5）



（注）家計のインフレ期待は1年先の中央値
（資料）Datastream、Bloomberg
（インフレ期待：日次、物価：月次・週次）

また、ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1 年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は 10 月には 12.8%となった。期待インフレ率は 3 月（18.3%）をピークに急速に低下したのち、7 月（10.8%）を底に増加に転じている（図表 5）。

（図表 6）



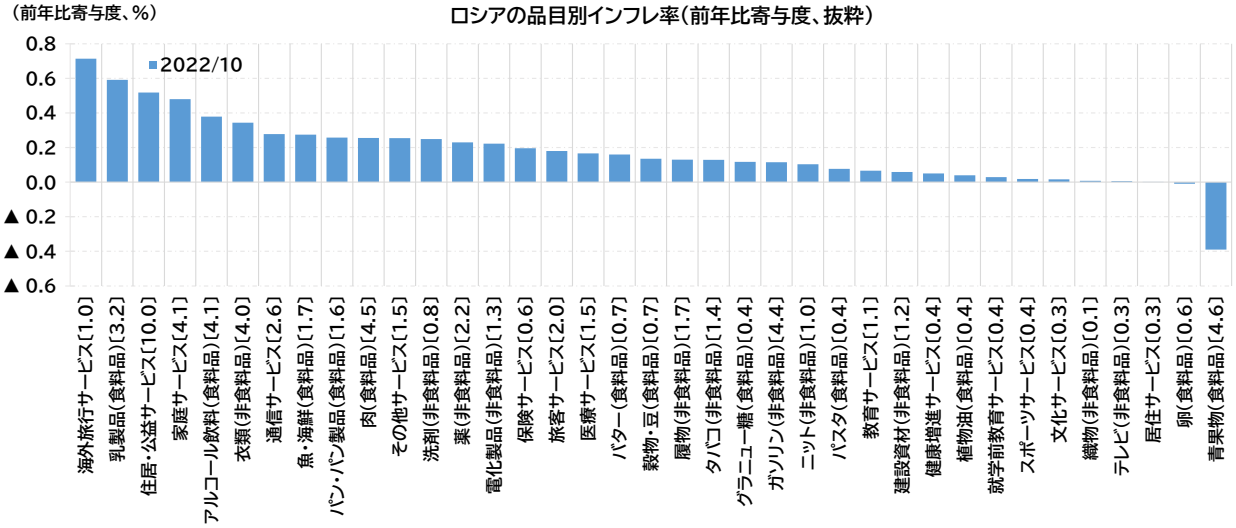
（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、〔〕内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

Copyright ©2022 NLI Research Institute All rights reserved

品目別の上昇率では[3]（図表 6）、10 月は前年比で海外旅行サービス（70.08%）、洗剤（31.79%）、グラニュー糖（30.59%）、保険サービス（30.35%）の上昇率が高い。

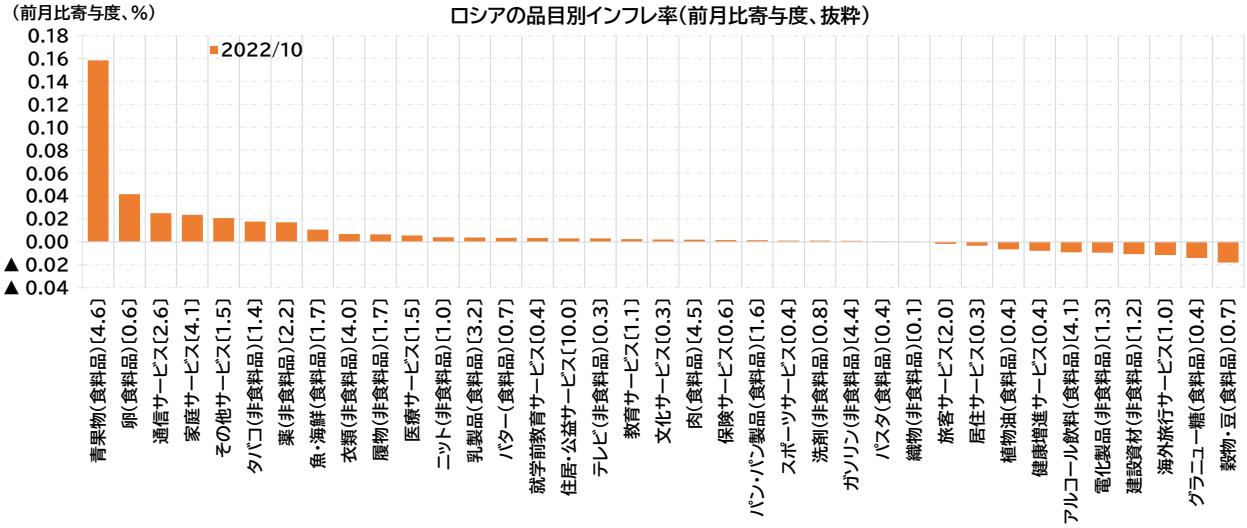
前月比では、グラニュー糖（▲3.66%）、穀物・豆（▲2.79%）、健康増進サービス（▲1.96%）植物油（▲1.74%）の下落率が大きい一方、卵（7.17%）、青果物（3.45%）、その他サービス（1.42%）、タバコ（1.29%）の上昇率が高かった。

（図表 7）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、〔〕内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 8）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、〔〕内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

各品目の消費ウエイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表 7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は海外旅行サービス（0.7%ポイント）、乳製品（0.6%ポイント）、住居・公益サービス（0.5%ポイント）、家庭サービス（0.5%ポイント）、アルコール飲料（0.4%

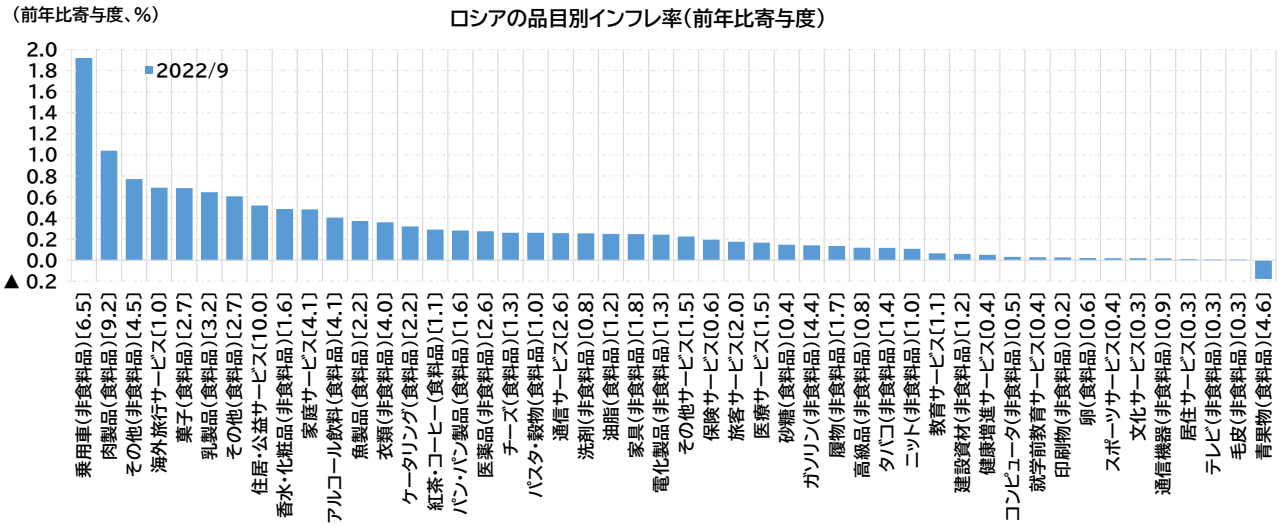
[3] 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、統計局のウェブサイトで公表しているものを記載。

 | Copyright ©2022 NLI Research Institute All rights reserved

ポイント）となった。一方、青果物（▲0.4%ポイント）は前年比でマイナス寄与となった。前月比上昇率の寄与は、青果物（約 0.16%ポイント）、が大きく物価を押し上げた要因となった。青果物を除くと、10 月の総合指数前月比伸び率はかなり限定的だったと言える。

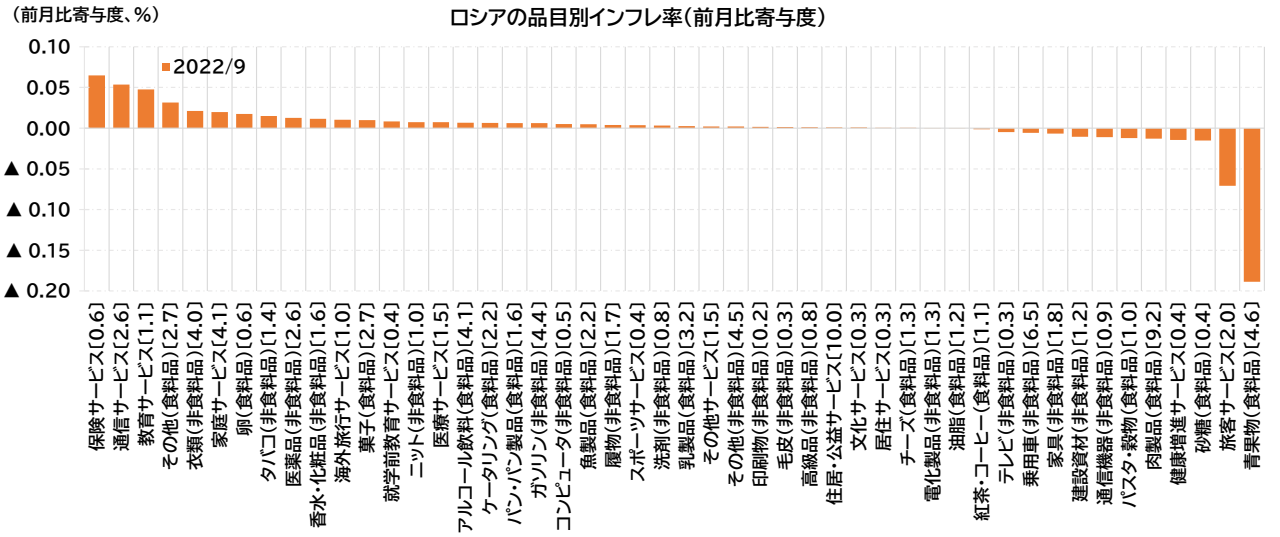
なお、現時点で統計局ウェブサイトでは乗用車の上昇率が公表されていないが、9 月時点では、引き続き乗用車の前年比上昇率寄与（1.9%ポイント）が大きい状況である（図表 9）。

（図表 9）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算、〔〕内はウエイト
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 10）



（注）各大分類の中のその他の項目は残差から計算
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。